



国際協力

2022.7
NO. 72
夏号

JICA 駒ヶ根

2022年度JICA海外協力隊派遣前訓練開始! 1次隊69名が修了!

2022年度1次隊の派遣前訓練が6月9日に無事終了し、69名が隊員として訓練所から旅立ちました。今回の派遣国はブータン、インド、スリランカ、パラオ、ドミニカ共和国、エルサルバドル、グアテマラ、ニカラグア、パナマ、セントルシア、ボリビア、ブラジル、チリ、パラグアイ、ペルー、マラウイ、ナミビア、ウガンダ、ザンビア、ベナン、カメルーン、ガボン、セルビア、キルギス、ウズベキスタンの計25か国。今隊次は2019年度以来2年ぶりに森のステージでの修了式となり、最後は2年ぶりに若い力の歌を隊員が斉唱しました。昨年同様コロナ禍での訓練となっていますが、感染防止対策を徹底しながらも、充実した派遣前訓練を行い、一人でも多くの隊員を送り出せるよう取り組んでまいります。派遣再開国も徐々に増えており、現在JICA海外協力隊渡航済み国数は、49か国、派遣中人数は421名となります。(2022年6月14日時点)



森のステージでの修了式



距離をとり、若い力の歌を斉唱!

駒ヶ根協力隊を育てる会 会長交代について ～新旧会長からのご挨拶～

日頃より、駒ヶ根訓練所や協力隊事業へのサポート・ご支援をいただいている、駒ヶ根協力隊を育てる会において、この度会長が交代され、また名誉会長の高坂様のご退任となりました。ご退任・ご着任にあたり、御三方よりご挨拶をいただきました。



退任にあたり

駒ヶ根協力隊を育てる会 前会長 有賀 秀樹

育てる会の立場から、訓練所のスタッフや訓練生の皆さんと触れあえたことは、大きな喜びでした。ありがとうございました。特に訓練中の地域実践プログラムで、私たちの支援する学び舎のメンバーとのコラボでは、貴重な学びがありました。共に地域課題に向き合う中で、支援することは同時に支援されることであることに気づかされました。今後、立場を離れても、共に歩みたいものです。



御挨拶

駒ヶ根協力隊を育てる会 新会長 池崎 保

この度、有賀・前駒ヶ根協力隊を育てる会会長の後任として会長に就任しました。2020年7月まで41年間、外務省に奉職し、その間特にアフリカの大使館(マダガスカル、モロッコ、コートジボワール、セネガル、ブルキナファソ)に勤務した際、JICA事務所と共に協力隊の方々の支援を行ってまいりました。その後退官し、現在は山紫水明の駒ヶ根に居を構え、一市民として趣味の釣りや畑仕事や庭の手入れ、書の手習い等勤しんでおりますが、今回改めて協力隊の支援に関わることとなりましたことは、ご縁であり、また運命かもしれません。育てる会の発展のため微力を尽くしてまいりる所存ですので、皆様のご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



宝を生かして

駒ヶ根協力隊を育てる会 名誉会長 高坂 保

協力隊訓練所、協力隊を育てる会に関わって三十年余、この間訓練カウンセラー・育てる会会長等二十五年に亘ってやらせていただきました。駒ヶ根訓練所は創造的人間を育てる場所で、若い青年の情熱とエネルギー・実践力に感銘し、すっかり虜となってしまいました。この宝を子供たちの教育に生かすべきと考え、訓練生と子供たちの交流(学校交流)、中学生の体験入隊やネパール派遣、教職員の訓練所視察など実現することが出来ました。この体験をした子供たちが、協力隊員として活動するようになったことが何よりもうれしい事です。長い間ありがとうございました。

協力隊から帰国後長野県内の多文化共生分野で活躍! 高森町・ウクライナ避難民への支援

今回は、高森町のウクライナ避難民の方々への支援でご活躍されている協力隊OVの三池道子さん、そして2019年から2年間駒ヶ根訓練所に出向いただき、現在高森町役場でウクライナの方々の支援業務に携わっている遠山景太さんへインタビューを行いました!

協力隊時代の活動と、帰国後のキャリアについて教えてください。

▶三池: タイにある教員養成の大学で、観光学科と英語学科の学生の副専攻として、日本語を教えていました。帰国後は、山岳民族の多文化共生に関心があったため、タイに戻り、チェンマイ大学教育学部の大学院に入学しました。タイには協力隊時代も含め、8~9年間滞在していたこととなります。その間に子供も生まれましたが、チェンマイに部屋を借りつつ、山岳民族であるカレン族の村に家を建て、家族で暮らしていました。カレン族の方々とは暮らす中で、日本の街で育った私は、カレン族の村では5歳の子よりも生活力が低い状況でした。長女の入学の時期に合わせて日本に帰国することになりますが、彼らから学んだ暮らしを、日本でも実践していければという思いがあり、長野県の大鹿村で生活後、現在は駒ヶ根市に住み、海外から特定技能で入国される方々の支援・受け入れや書類作成に関する仕事、介護分野の技能実習生に向けた日本語教育などを行っています。

今回ウクライナ避難民の支援に携わることになったきっかけは何ですか?

▶遠山: 高森町にある空手の団体「禅道会」さんは、全国と世界中に支部があり、ウクライナ支部とも繋がりがあったため、何とかウクライナ避難民の力になりたいという声を高森町にいただき、そこからスタートしました。言葉の面など難しい部分も多々ありましたが、高森町で無事に受け入れをすることが出来ました。生活支援については、ノウハウも少なく、様々な模索をしていく中で、高森町の子育て支援センターの隣に、外国籍労働者の受け入れの環境整備、コミュニケーションのノウハウを持っている産婦人科施設があり、その最前線で働かれていたのが三池さんでした。現在、禅道会の皆さんや、三池さんにウクライナの方たちとのコミュニケーションや生活支援など先頭に立ってもらっています。

現在三池さんはどのような支援をされているか教えてください。

▶三池: 週に2回のウクライナの方たち向けに日本語講座を行っています。その他、学校に通うための電車の乗り方や、ゴミ捨ての仕方などを通訳の方の力も借りながら教えるなどの、生活支援を行っています。

協力隊経験が生きていると思うことはありますか?

▶三池: 自分が協力隊員として海外にいた頃は、現地の方にとっても良くしていただき、面倒を見ていただいた経験から、恩着せがましくするのはではなく、どの程度の支援が必要かという点や距離感を、常に考えながら行っています。

遠山さんは駒ヶ根訓練所に2年間出向いただいた経験が役立っていることはありますか?

▶遠山: 協力隊に派遣中の方や、OBOGの方の話をお聞きし、自分たちが外国に行けば外国人として扱われることも当然あるという中で、ウクライナの方がこちらに来た際は、馴染まなければいけないという葛藤もあるのではと感じていました。受入側が理解を持つことは非常に重要と考えていたので、事前に地域の方への声掛けをするなど、積極的に動いていけたことは良かったと思っています。

今後の支援について教えてください。

▶遠山: 寄付やチャリティーという段階から、ウクライナの方が一人ひとり自立をし、地域住民の一人として過ごしていくための手助けをはじめ、母国の事を想いながら、この町で快適に楽しく暮らしていただけるよう行政として良い距離感でサポートをしていきたいと思えます。

▶三池: これから段々と生活の支援は少なくなってくるとは思いますが、その都度悩みなどは変わってくると思うので、そこに寄り添っていけたらと思います。地域の方の中には、何かしたい、力になりたいと考えている方も多くいらっしゃると思うので、一緒になってサポートを行っていくことが出来ればと思います。

三池さん、遠山さん ありがとうございます!



協力隊員時代
(下から3段目の左から2人目)



カレン族と共に暮らしていた頃の写真



三池さん(右側中央)と
ウクライナの方々の日本語教室時様子

JICA海外協力隊2022年春募集説明会を県内2か所で実施しました!

2022年5月20日～6月30日の期間、JICA海外協力隊の募集が一年ぶりに再開され、長野県では6月4日に長野市生涯学習センターTOiGO、6月25日に駒ヶ根訓練所で募集説明会を実施しました。



協力隊経験者のパネルトーク

駒ヶ根訓練所の説明会では、訓練所ツアーや語学訓練体験を通し、合格してから派遣までの流れ、実際の訓練の様子や生活を体感していただけるプログラムを行いました。参加



語学訓練体験

された方からは、「実際に派遣された経験者の話や、訓練所の様子を知ることが出来て良かった、語学体験を通して、実際の訓練が楽しみになった」など嬉しい感想をいただきました。

募集期間が終わったあとも、引き続き駒ヶ根訓練所では個別相談を受けております。応募に関する質問や訓練所スタッフとの座談会、派遣前訓練について詳しくお知りになりたい方など、オンラインでも対応可能ですので、是非お気軽にご連絡ください!



訓練所説明会の運営スタッフ

セイコーエプソン×駒ヶ根訓練所、初の連携講座を実施!

2022年3月25日に、JICAとの包括連携協定を締結したセイコーエプソン株式会社(以下、「エプソン」)の皆様にご協力をいただき、訓練所初となる民間企業との連携講座をオンラインで実施しました!



講座の様子

を繋ぐ」をキーワードに、1日目はエプソンのSDGsや社会課題に関する取り組みを学ぶとともに、プロジェクターを活用し、派遣国でどのような課題解決に繋がっていくことが出来るかを考えました。

2日目は、それぞれが考えたアイデアをグループ内で共有し、エプソンの皆様とディスカッション、そしてグループ

5月21日、28日と2日に渡り開催された講座(選択講座)には、17名の訓練生が参加。「信頼とテクノロジーで世界



エプソンの皆様とディスカッション

代表の訓練生がプレゼンを行いました。訓練生はエプソンの皆様と真剣な眼差しで熱い意見交換を繰り広げ、新たなアイデアやイノ

ベーションにつながりそうな提案を積極的に行いました。

今回の連携講座を通し、これから派遣される任国で、配属先や地域の方々の声を聞きながら、テクノロジーを活かした新しい形の活動も模索していくきっかけになったことと思います。

セイコーエプソン株式会社ビジュアルプロダクツ事業部、サステナビリティ推進室の皆様、ありがとうございました!



考えたアイデアをプレゼン中



セイコーエプソン株式会社 酒巻様(写真中央)より訓練生へメッセージ

「みなさんの高い志に触れ、良い刺激を頂いた貴重な時間となりました。ありがとうございます。今回のアイデアや想いは、今後の連携で共に活かしていきましょう。みなさんの任国での活躍を長野より応援しています。」

